



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (5月18日～23日)

1. 中国からの輸入額 (5月18日付イラン・ニュース紙)

昨年(ヒジュラ太陽暦1391年、2012年3月20日～2013年3月20日)のイランの輸入額530億米ドルのうち、81億6,000万米ドルが中国から輸入された。国会のホセイニー議員は、中国は(原油対価)30%を現金で決済し、残りの70%をイランが輸入する品物によって決済していると述べた。多くの経済専門家は、中国からの低品質な製品がイラン市場に流入していることが、国内生産部門に打撃を与えていると主張している。

2. パキスタンへの電力販売と小麦の輸入(5月18日付ケイハーン・インターナショナル紙)

パキスタン商業省のアシュラフ報道官は、イランからの電力購入に対する支払いとして、5,300億米ドルの小麦(10万トン)をイラン向けに輸出すると述べた。

3. サフランの輸出高 (5月23日付イラン・ニュース紙)

貿易促進機構によれば、サフランの輸出高は4億1,900万米ドルであり、昨年(ヒジュラ太陽暦1391年、2012年3月20日～2013年3月20日)比金額ベースで14%増、重量ベースで11%増となった。中国向けの輸出量は5倍となっている。

4. インドとのバーター取引 (5月23日付イラン・ニュース紙)

貿易促進機構副長官は、イランとインドは、石油・ガスと繊維機械・原料のバーター取引を行うと述べた。

5. 農業ジハード省による小麦買い付け (5月19日付テヘラン・タイムズ紙)

農業ジハード省が、国内の小麦農家から、7,000リヤール/kgで買い付けをしつつ、不足分として、輸入小麦を1万2,000～1万3,000リヤール/kgで買い付け、昨年(ヒジュラ太陽暦1391年、2012年3月20日～2013年3月20日)は600万トンを入力し、本年は1,000万トンを入力する見込みであることを国会議員が批判している。また、イラクの取引業者が、イラン政府の小麦購入価格よりも高値で、イラン産小麦を引き取っている。

6. 自動車へのインフレの影響 (5月22日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

イラン中央銀行は、(輸入部品などにより)外貨を必要とする自動車6モデルには、52～60%のインフレの影響があると計算した。この6モデルとは、(1) Megan、(2) Tondar-90、(3) Nissan Teana、(4) Suzuki Grand、(5) Vitara、(6) Runna、である。

7. ガス・電力分野でのパキスタンとの取引 (5月22日付イラン・デイリー紙)

ラヒーミー第一副大統領は、パキスタン・ムスリム連盟シャリーフ派(PML-N)のシャリーフ代表と電話会談を行い、ガスおよび電力分野でのパキスタンの要望を満たす用意があると述べた。

8. 自動車生産（5月23日付テヘラン・タイムズ紙）

ヒジュラ太陽暦1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）ファルヴァルディーン月（2013年3月21日～4月21日）のイランの自動車生産は、前年比57.8%の落ち込みとなった。内訳は、(1) イラン・ホドロ社：77.7%減、(2) サーイパー社：75.1%減、(3) パールス・ホドロ社：32.5%減、(4) バフマン社：50.4%減、(5) ケルマーン・モーター社：100%減、(6) モディーラーン社：84%増、であり、資本不足が原因とされる。

9. レバノンへの燃料油とLPG輸出（5月18日付イーラーン紙）

レバノンは、燃料油とLPGをイランから輸入することに関心を示した。両国が合意すれば、韓国に次ぎ、LPGを輸入する国となる。

10. インド石油天然ガス省による保険の提供（5月19日付イラン・デイリー紙）

インド石油天然ガス省は、イラン産原油を輸入する事業者に2,400億ルピー（約44億米ドル）の保険を提供することを決定した。これを利用するインド企業は、HPCL、マンガロル精製石化、エッサルの3社となる見込み。

11. トルコによるイラン産原油の輸入（5月19日付イラン・デイリー紙）

エルドアン首相は、ワシントンのブルッキングス研究所において、イラン産原油の輸入量は、トルコのエネルギー需要に基づいて決まると述べた。トルコがイラン産原油の輸入量を削減した後、米国はトルコに対して180日間の国防授權法適用除外を2012年12月7日に決定した。2012年9月から2013年3月のトルコによるイラン産原油の輸入量は、平均10万バレル/日であるが、2013年3月の輸入量は11万4,000バレル/日、4月は14万バレル/日となっている。

12. インドへのイラン産原油輸出（5月19日付イラン・ニュース紙）

インドは、昨年（ヒジュラ太陽暦1391年、2012年3月20日～2013年3月20日）、110億米ドルのイラン産原油を輸入したが、イラン向けの輸出は主として、農産物29億5000万米ドルに過ぎない。インド側は、輸出を非農産物の繊維・医薬品などに広げようとしているが、船積発送が困難となっている。香港・中国を拠点とする船会社が6月1日からイラン向け配船を停止している。

13. OPEC方式の石油化学分野の枠組設立（5月20日付アブラーレ・エグテサーディー紙）

NPC（国営石油化学会社）総裁は、OPEC方式の石油化学分野の枠組設立に関するイランの提案に、トルコとエジプトが合意していると述べた。PECF（Petrochemical Exporting Countries Forum）への潜在的な参加メンバーは、イラン・サウジアラビア・UAE・ロシア・カタール・トルコとなる。